

講演1

読み書き障害のある子を読書好きにするには

小枝 達也

国立成育医療研究センターこころの診療部

発達性読み書き障害（ディスレクシア）は、学習障害の中核的な存在です。私たちの調査では一般の子どもの中の2%くらいが該当します。

本公開講座では、ディスレクシアのお子さんを本好きにする話しをします。

本を読むということは子どもの学びにとってとても重要です。日常会話で使われる言語を生活言語といい、文章の中に出てくる独特の表現を学習言語といいます。学校で学ぶためには学習言語を習得する必要があります。

ディスレクシアの原因は、文字とその読みの対応（解読）に困難があり、通常の学習量では自動化しにくく、音読にいつまでも時間と努力を要することにあります。誤学習していることも多いのですが、ほとんどの場合、気付かれていません。そのために読むのが遅いし、読み間違えることが多いので、本を読むのが嫌いになり、語彙不足や知識不足が生じるのです。そして学業不振が顕著となり、学校が嫌になっていきます。

小学校の1年生のうちに発見し、改善するための方法を開発しました。RTI (Response to Intervention) といって、音読が下手であると評価したらすぐに指導を行い、改善のよくない子にさらに個別的な指導を行うという方法に、医学的評価を加えることで早期発見が可能となりました。また解読指導と語彙指導という2段階方式による指導を柱とする方法を開発しました。これらをT式ひらがな音読支援と命名しました。

平成26年度から鳥取市の全小学校（45校、約1700名）においてT式ひらがな音読支援を実践しています。この方法により読み書き困難を抱える子がずいぶん減りました。iPadを活用した音読指導アプリも開発しました。

ホームページにT式ひらがな音読支援の詳細を公開しています。また音読指導アプリも無料公開していますので、「音読指導アプリ」で検索しダウンロードして活用してください。

ホームページ；<http://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/heart/dyslexia/index.html>